

景況調査

(平成22年10月～12月期)

前年同期と比べた10～12月期のDIは、売上高が1.5ポイント上昇してプラスマイナス0となった他は下降もしくは横ばいとなった。過去4回の調査では、連続して改善を示した業況も今回の調査ではマイナス11.8ポイントの▲25.4となった。同様に採算(経常利益)も6.8ポイントのマイナスであった。資金繰りは前年同期と変わらなかった。

平成23年1月～3月見通しでは、業況、売上高、資金繰りともに下降を示しており、採算(経常利益)だけが回復するという結果であった。

調査企業全体の10～12月期の前年同期との比較DIは▲25.4となっており下降してしまっただ。これまで順調に右肩上がりであった業況判断がマイナスに傾いたことは注目しなければならぬ点である。

平成23年1月～3月の業況見通しも▲30.5であり、1年前の水準に逆戻りしている。

売上高

調査企業全体の10～12月期の前年同期との比較DIはプラスマイナス0となった。7～9月期に一気に回復を見せた売上高DIがそのまま回復基調を維持していると言える。

しかし、平成23年1月～3月の見通しDIでは▲27.3と大幅なマイナス見通しであり、1年前よりもさらに低い数値となっている。

採算(経常利益)

調査企業全体の10～12月期の前年同期との比較DIは▲53.1となった。7～9月期に回復の様子を見せた採算(経常利益)DIが再び下降したことになる。過去5回の調査を見るとジグザグに回復と下降を繰り返しており、採算DIは

全体として上昇傾向を見せていないといえる。平成23年1月～3月見通しでは、▲39.1と14ポイントの上昇である。

資金繰り

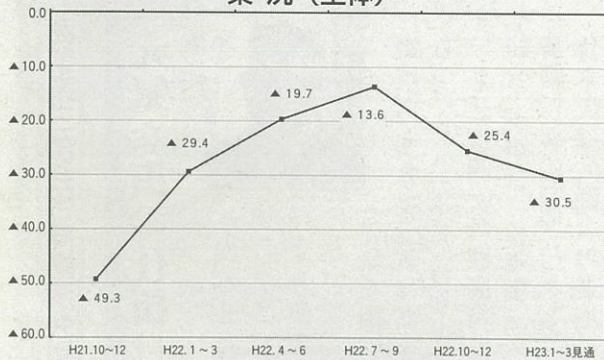
調査企業全体の10～12月期の前年同期との比較DIは、▲11.7となった。これは、7～9月期と同数値である。平成22年1月～3月期を底に少しずつ回復を見せてきたが、ここにかけて足踏みとなった。

1～3月期の見通しが▲16.7と下降に転じており、10月～12月期が足踏みなのか頂点なのかを見極めなければならぬ。

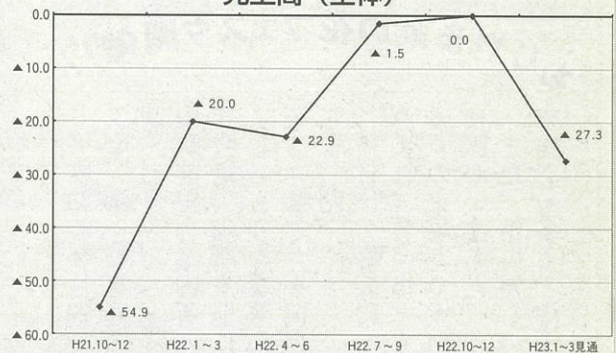
その他の意見

- ・勝ち組、負け組の差がどんどん大きくなるようである。経営改革を絶えずして勝ち組に残ることが大切。
- ・商工会議所に地元企業の活性化を望む。
- ・先が見えない。
- ・23年後半からは受注回復の兆しもある。

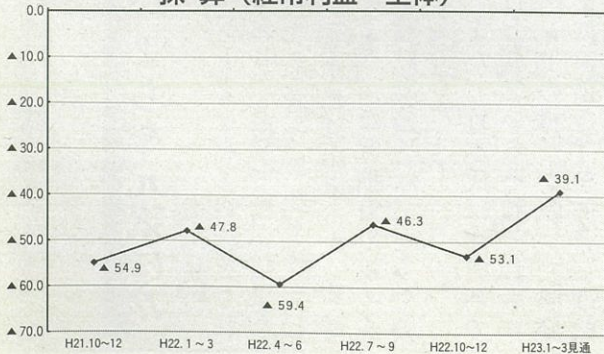
業況(全体)



売上高(全体)



採算(経常利益 全体)



資金繰り(全体)

